

まちづくり懇談会（温根別地区） いただいたご意見

日時：令和 7 年 2 月 18 日 18：00～19：45

市参加者：渡辺市長、大橋総務部長、丸市民部長、東川健康福祉部長、坂本経済部長、
三上生涯学習部長、増田企画課長、萩田企画課副長、企画課職員

参加市民人数：18 人

（１）総合計画の基本的な考え方について（資料 1）

■ご意見 1

- ・配布資料の内容はすでに決定事項なのか、それとも案なのか。

■回答 1

- ・案です。皆様のご意見を伺いながら、必要に応じて変更していく。

■ご意見 2

- ・アンケート調査結果で、士別への定住意識が 10 代では高いが、20 代から低下する要因は何か。

■回答 2

- ・10 代は在学中のため、友人が多く地元意識が強い。しかし、20 代になると就職・転職を考え始めた際に希望する職が地元にないため、市外での生活を希望する人が一定数いるためだと推察する。
- ・アンケートには他にも多くの設問があり、本日お示ししたものは一部を抜粋したもの。今後、クロス集計を図ることで 10 代の方々がどのような思いをお持ちなのかさらに深掘りしたいと考えている。

■ご意見 3

- ・高校卒業後の市外流出率と U ターン率は。私は U ターン経験者として、一度市外に出た人がまた戻ってきたくなる街になってほしい。

■回答 3

- ・正確な転出率は現時点では不明ですが、転入と転出の差分を示します。15～19 歳女性は 5 年間で 4 割減、男性は 1 割減。20～24 歳女性は 1 割減、男性は 2 割減。30 歳以降は転入・転出が拮抗しています。本市では特に女性の転出率が高く、この層の転出を抑え

ていきたいと考えている。

■ご意見 4

- ・地区別計画について基本計画に格上げすると記載があるが、対話やご意見交換の場は設けられるのか。設けられるのであればそのスケジュールについて教えていただきたい。

■回答 4

- ・地区別計画の整備の方法については、一度、現計画の検証をさせていただいた上で、素案を地域の皆様にご提示させていただく予定。その後、意見交換の場などを設けるかどうかについても今後検討していく。

■ご意見 5

- ・私は士別市街地から 22km 離れた温根別地区に住んでいますが、バスは 1 日に数本しかなく、運転できなくなった場合の移動が困難。高齢者が住み続けられるまちづくりを目指してほしい。

■回答 5

- ・今後の総合計画策定の参考とする。

■ご意見 6

- ・農業従事者が減少しており、市として対策を講じてほしい。

■回答 6

- ・今後の総合計画策定の参考とする。

(2) 持続的なまちづくりについて (資料 2, 3)

■ご意見 1

- ・廃止する施設への職員配置人数、廃止後の職員の配置はどうするのか。

■回答 1

- ・正職員については異動。会計年度任用職員については期限が来たら終わり。

■ご意見 2

- ・正職員の人数と会計年度任用職員の人数は。会計年度任用職員の数が正職員より多い理由は。

■回答 2

- ・正職員数は 310 名、会計年度任用職員は 324 名。正職員では賄いきれない業務が多く、ごみ収集・保育士・給食センターの調理師・学校支援員など現場職員が多いため。

■ご意見 3

- ・総合型スポーツクラブ助成事業の縮小については現在いただいている支援額が少なくなるという認識でいいか。

■回答 3

- ・その通り。市としては支援額は下がっても、地域の特色を活かした事業を展開してほしいという願いがある。

■ご意見 4

- ・使わなくなった施設はその後は。解体予定の施設ついでの計画は。

■回答 4

- ・明確に決まったものはないが、基本的には、売れるものは民間に売る、古いものは壊すということを考えている。現在、財政健全期間中で解体は凍結中であり、ここ数年は解体を行っていない。解体する順番や年次などについては R7 に策定する総合計画の中で位置づけていきたい。

■ご意見 5

- ・何年か前に国の事業で光回線を整備したと記憶しているが、士別市はインターネット普及率は高いか低い。DX 化のメリットは地方であればあるほど大きいと考えているので、そういったところをフル活用することで住みやすいまちづくりを目指していただきたい。

■回答 5

- ・率までは把握していないが、国に指定された「400 世帯の加入」という条件はクリアしている。せっかく整備したインフラなので最大限に活用したいと考えている。DX 推進事業には様々なメニューがある。例えば、士別市では導入していないが、「住民票をコンビニで取得できる」といったものもある。国の交付金を活用し、低コストで導入することができるメリットがある一方、職員 2 人分の給与程度のランニングコストがかかるといったデメリットもある。
- ・DX 推進事業については人口規模の小さい自治体ほど恩恵が少なく、多額のランニングコストが必要となるため導入しづらいという点がある。少しずつ良くなってきてはいるが、もう少し改善されないと浸透しづらいのではと考えている。

■ご意見 6

- ・温根別小学校は閉校となる予定だが、温根別地区では一番新しい施設であり【資料 3 施設の在り方を継続協議する施設】の中に入れていただきたい。

■回答 6

- ・温根別小学校については平成 26 年頃に改修したばかりの建物であり、まだまだ活用できることや地域の大切な財産であると認識している。統廃合後の利活用については地域の皆様や行政と引き続き協議していきたいと考えている。
- ・【資料 3 施設の在り方を継続協議する施設】に入れて欲しいとのことであったが、それは可能。ただし、この部分については現存の施設で縮小なのか廃止なのかという観点で記載をしている。温根別小学校については廃校が決まっていることから記載がない。

■ご意見 6

- ・温根別小学校の廃校後の利活用についてどこで協議がされているのかを見える化していただきたい。

■回答 6

- ・周知の方法について、持ち帰り検討する。

■ご意見 7

- ・博物館について 1 月から 2 月にかけては休館日が多いと聞いた。それであれば思い切って冬期間を閉鎖することで除雪費などの節約に繋がるのでは。

■回答 7

- ・士別市は「生涯学習のまち」と掲げており、利用される方もいらっしゃるため、半年間も閉めるというのは考えられない。
- ・正月休み以降、休館日は多いが職員は出勤している。また、冬にしかできない事業を開催していることや各学校からの要望により出前講座も行っている。この準備を含めて休館日に行っている。決して無駄ということではないと考えている。

(3) その他

■ご意見 1

- ・水郷公園を年に数回利用しているが、市外ナンバーの車をよく見かける。周辺に飲食店があれば、さらに多くの人を集められるのでは。飲食店の誘致は可能か。

■回答 1

- ・誘致することは可能だが、経営側の収益性なども考慮する必要がある。現在、士別市では起業する方も増えているので、そういった方々に市として支援するということも検討の余地はあると考えている。
- ・一部ではキャンプシーズンにキッチンカーを水郷公園に乗り入れることができないのかという声も挙がっている。そのことについても検討したいと考えている。

■ご意見 2

- ・浄水場等のインフラ設備の耐用年数は。現存の施設がいつ頃まで使えるのか。子の世代まで担保できるか。担保ができないのであれば、コンパクトシティやスマートシティのようなものも考えていかないといけないのではないか。

■回答 2

- ・人口減少することを想定して、規模も縮小しながら改修工事を進めている。しかしながら、管路自体はなかなか減らすことができないということが課題であり、維持管理がさらに厳しくなることを想定している。機器の更新も含めて計画的に進めていきたい。また、今の浄水場が使えなくなるということは想定していない。
- ・コンパクトシティについては具体的な取り組みはできていないが、市としても考えていかなければならない課題であると認識している。上水道や下水道等のインフラの関係は、改修財源の確保が全国的にも課題となっており、士別市については順番に新しいものに更新していくということは財源がなく難しく、漏水した箇所から順番に新しい管に変えるといった対応をしているのが現状である。

■ご意見 3

- ・庁舎のコンシェルジュは2名も必要なのか。

■回答 3

- ・電話交換、庁舎の案内として2名配置している。昨年から朝と晩は1名配置にするなどの対策を行っており、今年の4月からは1名体制の時間帯を長くしていく予定である。また、来年の4月からは改めて窓口の在り方について検討していく予定である。

■ご意見 4

- ・植林と伐採は毎年どのくらい行っているのか。

■回答 4

- ・面積的なものは押さえていないが、どちらも毎年行っている。

■ご意見 5

- ・温根別閉校予算 75 万の詳細は。

■回答 5

- ・閉校時の式典開催費用が約 10 万円、送迎バス代が 25 万円程度、期成会に対する補助金が 40 万円、その他事務用品等。

■ご意見 6

- ・市長が考える市の一番の課題は。

■回答 6

- ・人口減少である。財政運営に直接関係する部分であり、国に対しても要望しているところだが、現行の地方交付税制度のままでは、士別市に限らず全国の自治体が衰退する可能性があると考えている。

■ご意見 7

- ・諮問委員会が多くあるが、特にご意見も出ないような会議であれば必要ないのでは。

■回答 7

- ・国や北海道の指定に基づくものについては廃止することはできない。一方で市の条例に基づくものについては縮小や統合をすることは可能である。

■ご意見 8

- ・習い事応援タクシーについて R7 年度も継続と聞いている。受益者としては大変有り難いサービスだと感じているため、引き続き継続をお願いしたいと考えている。

■回答 8

- ・少し形態は変わるが、R7 年度は継続の予定である。